

# 小平市公共施設マネジメント市民会議

未来につなぐ公共施設のあり方を考えませんか？

## 報告書



平成27年11月

小平市

# 目次

<b>1 小平市公共施設マネジメント市民会議 概要</b> . . . . .	<b>1</b>
(1) 趣旨 . . . . .	1
(2) 登録制度 . . . . .	1
(3) 日時・場所・参加者数 . . . . .	1
(4) その他 . . . . .	1
<b>2 市民会議のテーマ等</b> . . . . .	<b>2</b>
(1) 第1回 市民会議 . . . . .	2
(2) 番外編 市民会議 . . . . .	3
(3) 第2回 市民会議 . . . . .	4
(4) 第3回 市民会議 . . . . .	5
(5) 第4回 市民会議 . . . . .	6
<b>3 資料</b> . . . . .	<b>7</b>
(1) ワークショップにおける意見のまとめ . . . . .	7
(2) 市民会議ニュース . . . . .	17
(3) 参加者アンケート . . . . .	25
(4) アンケート集計結果（4回分） . . . . .	26
(5) アンケート自由意見 . . . . .	27
(6) 市民会議広報用ちらし . . . . .	31

## 1 小平市公共施設マネジメント市民会議 概要

### (1) 趣旨

公共施設を取り巻く環境が、変わろうとしています。

小平市の多くの公共施設は1960年代から1970年代に建設しているため、建設から40年から50年が経過し、これらの公共施設の老朽化が進み、約10年後から一斉に更新時期を迎えます。また、これからの人口減少、少子・高齢化、そしてこれらに起因する財政バランスの悪化により、これまでの人口増加を前提とした仕組みや考え方に対して、転換を迫られる状況にあります。

このような背景のもと、平成26年度に小平市では公共施設の現状と課題を記した「小平市公共施設白書」を策定し、平成27年度にはこれからの公共施設のあり方の基本的な方針を示す「(仮称)小平市公共施設マネジメント基本方針」を策定します。

また、平成28年度には個別の公共施設の適正配置について記載する「(仮称)公共施設適正配置実施計画」を策定する予定です。

公共施設は市民が利用することでその効果を発揮することから、市民と対話をしながら、そして市民の意見を取り入れながら公共施設マネジメントを推進する必要があります。

小平市公共施設マネジメント市民会議(以下、「市民会議」という。)は、「(仮称)小平市公共施設マネジメント基本方針」に、市民の意見を取り入れることを目的に、平成27年5月から平成27年7月にかけてワークショップ形式で行った会議です。

### (2) 登録制度

#### ①登録者数

16名

#### ②登録事項

住所、氏名、電話番号、性別、年齢(年代可)、市民の別(在住・在勤・在学)、自由意見

### (3) 日時・場所・参加者数

全5回開催、延べ参加者数 43名

第1回 平成27年5月23日(土) 14:00～16:10 中央公民館講座室2  
参加者数 8名

番外編 平成27年5月30日(土) 9:00～12:40 施設見学  
参加者数 4名

第2回 平成27年6月13日(土) 14:00～16:10 福祉会館第3集会室  
参加者数 8名

第3回 平成27年6月27日(土) 14:00～16:00 中央公民館講座室2  
参加者数 10名

第4回 平成27年7月18日(土) 14:00～16:00 中央公民館講座室2  
参加者数 13名

### (4) その他

ファシリテーターは市の入庁後10年以内の職員が担った。

## 2 市民会議のテーマ等

### (1) 第1回 市民会議

#### ①テーマ

小平市の公共施設の現状について

#### ②スケジュール

14:00～14:05(5分)	開会
14:05～14:25(20分)	これまでの小平市の取組等説明
14:25～16:05(100分)	ワークショップ
16:05～16:10(5分)	事務連絡

#### ③これまでの小平市の取組等説明

行政経営課長から、「小平市公共施設白書」、「公共施設に関する市民アンケート調査」などのこれまでの市の公共施設マネジメントの取組状況の紹介や、「(仮称)小平市公共施設マネジメントに関する基本方針」、そして「(仮称)公共施設適正配置実施計画」策定に関する今後の予定について示すとともに、市民会議が「(仮称)小平市公共施設マネジメントに関する基本方針」の策定に対する市民意見を聞くことを目的に設置された旨の説明を行った。

#### ④ワークショップ概要

2グループに分かれて、小平市の白地図に公共施設配置場所に機能分類ごとに色分けしたシールを貼るとともに、老朽化の状況を把握するため、老朽化の状況に応じて色塗りをし、公共施設の配置状況と老朽化の状況が示された地図を作成した。なお、グループワークに当たっては、「行政系施設、供給処理施設、市民文化・社会教育系施設、スポーツ・レクリエーション系施設」と「学校教育系施設、子育て支援施設、保健・福祉施設」に担当グループを分けて作業を行った。

作成した地図を見て感じたことなどを個人ごとに意見を付箋に書き出し、付箋を模造紙に貼りながらグループ内で意見交換を行った。意見交換後、グループごとに出された意見を発表した。

#### ⑤ワークショップにて出された主な意見

- ・公共施設は市内に適度に散らばっている印象だ。近隣他市の施設もプロットするとよいのではないか。
- ・高齢化が進んでいく割には、福祉系の施設が少ない気がする。
- ・財政バランスを考えた公共施設の統廃合が必要ではないか。
- ・学校施設は学校目的でしか使用できないということではなく、新しい価値を創造してはどうか。
- ・番号が学校の名称になっているところについて、ニックネームを付けて愛着を生み出してはどうか。
- ・学校しか建設できないような「用途地域」を見直す検討をしてはどうか。
- ・国の特区指定や民間との連携も視野に入れてはどうか。
- ・小平市は住みやすいまちだ。まちの強みを生かした人口増加策を検討してはどうか。
- ・市民との協働で公共施設マネジメントを進めていくべき。
- ・公共施設マネジメントについては、市民と市長が対話をしながら進めていくべき。

## (2) 番外編 市民会議

### ①テーマ

公共施設見学について

### ②目的

市内の公共施設を見学し、複合化された施設など見ることで、公共施設マネジメントの取組についてイメージしやすくし、また現場の職員から説明を受けることで、公共施設の運営に関することも知ることにより、公共施設マネジメントを総合的に捉え、これからの公共施設のあり方について考える一助にすることを目的とした。

### ③見学施設

小平第六小学校、小平元気村おがわ東、仲町公民館・仲町図書館、福祉会館

### ④スケジュール

9:00～ 市役所正面玄関集合（マイクロバスにて移動）

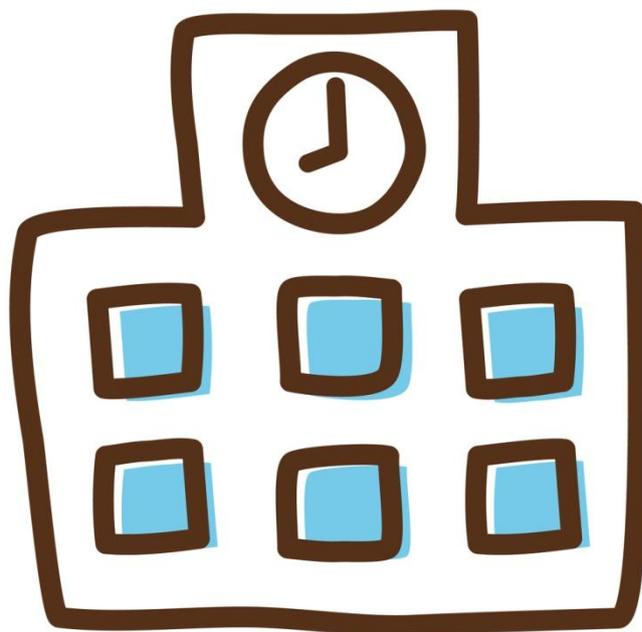
9:30～ 小平第六小学校見学（説明者 小平第六小学校校長）

10:10～ 小平元気村おがわ東見学（説明者 市民協働・男女参画推進課職員）

11:10～ 仲町公民館・仲町図書館見学（説明者 仲町図書館長）

12:00～ 福祉会館見学（説明者 福祉会館長）

12:40 解散



### (3) 第2回 市民説明会

#### ①テーマ

公共施設の「量と品質」について

#### ②スケジュール

14:00～14:05(5分)	開会
14:05～14:20(15分)	前回の振り返り及び施設見学の感想（市民3名で5分ごと発表）
14:20～14:35(15分)	行政経営課による「量と品質」の説明
14:35～16:05(90分)	ワークショップ
16:05～16:10(5分)	事務連絡

#### ③前回の振り返り及び施設見学の感想

前回市民会議（5月23日）に参加された市民から、会議内容を前回欠席者に情報提供するとともに、出席者にとっても前回話し合った内容を思い出してもらうことを目的に振り返りを行った。また、施設見学（5月30日）に参加した方からも当日の内容について紹介があった。

#### ④「量と品質」の説明

「量と品質」について、ワークショップでの活発な意見交換のため、行政経営課から説明を行った。（資料「市民会議ニュースVOL. 2」裏面参照）

#### ⑤ワークショップ概要

- ・参加者による2グループに加え、市職員のみグループも編成し、参加した。町丁別に人口密度が色塗られた地図に、公共施設配置場所に機能分類ごとに色分けしたシールと老朽化の状況に応じて色塗りされたものを見ながら「量と品質」の視点から意見出しを行った。
- ・意見出しについては、個人ごとに意見を付箋に書き出し、付箋を模造紙に貼りながらグループ内で意見交換を行った。また、グループの意見交換のなかで抽出された課題等についての解決策についても付箋に書き出した。意見交換後、グループごとに出された意見や課題への解決策を発表した。

#### ⑥ワークショップにて出された主な意見

- ・一人あたりの延床面積は多摩地域平均よりは低い、思ったより公共施設の数が多い。
- ・近隣市との市境にも公共施設が結構ある。
- ・公共施設が集中している地域については、複合化などを検討することが可能だ。
- ・駅や幹線道路の位置とは関係なく、公共施設が配置されている印象だ。
- ・老朽化が進んでいるところは、急いで今後の対応を考えるべきだ。
- ・防災面として、公共施設を活用した小さな避難拠点が整備されると良い。
- ・老朽化したときの維持管理がしやすいような建物の設計が必要だ。
- ・耐震強度やコンクリート内の鉄筋がさびているかといった管理の視点も重要だ。
- ・それぞれの地域で、公共施設から市民がどれほど恩恵を受けているかを考えるべきだ。
- ・イノベーション（新しい発想）を推進することが大切だ。
- ・行政の縦割りをなくし、政策を前に進める機関を設置し、具体的に事業を推進すべきだ。
- ・まちの魅力を発信し、人口を維持、もしくは増加させることも考えてはどうか。
- ・複数の課題を解決できるような策を考えるべきだ。
- ・市民に積極的に情報提供を行うなど、公共施設の課題を自分の問題として考えてもらえるように働きかけることも大切だ。

#### (4) 第3回 市民会議

##### ①テーマ

公共施設の「機能」について

##### ②スケジュール

14:00～14:05(5分)	開会
14:05～14:15(10分)	前回の振り返り（市民2名で5分ごと発表）
14:15～14:30(15分)	行政経営課による「機能」の説明
14:30～15:55(85分)	ワークショップ
15:55～16:00(5分)	事務連絡

##### ③前回の振り返り

前回市民会議（6月13日）に参加された市民から、会議内容を前回欠席者に情報提供するとともに、出席者にとっても前回話し合った内容を思い出してもらうことを目的に振り返りを行った。

##### ④「機能」の説明

「機能」について、ワークショップでの活発な意見交換のため、行政経営課から説明を行った。（資料「市民会議ニュースVOL.3」裏面参照）

##### ⑤ワークショップ概要

- ・2グループに分かれて、2060年（45年後）頃を想定し「子ども・若者にとって望まれる機能」と「高齢者にとって望まれる機能」について意見出しを行った。なお、「子ども・若者」は大学生くらいまでを、「高齢者」は65歳以上を想定して話し合った。
- ・意見出しについては、個人ごとに意見を付箋に書き出し、付箋を模造紙に貼りながらグループ内で意見交換を行った。また、グループの意見交換のなかで抽出された課題等についての解決策についても付箋に書き出した。意見交換後、グループごとに出された意見や課題への解決策を発表した。

##### ⑥ワークショップにて出された主な意見

###### ◎「子ども・若者にとって望まれる機能」（2060年（45年後）頃を想定）

- ・核家族化が進み、世代間の交流が減ることで世代間の溝や交流していく能力が低下していつている。公共施設の機能を複合化するなどで解決していつてはどうか。
- ・多世代が「集う」ことができ、そこで子ども・若者が「遊び」「学ぶ」ことができるような機能が良い。
- ・例えば、地域センターと児童館のように、既に複合施設となっている「機能」間での交流を行っていく取組みも必要ではないか。
- ・機能の複合化に際しては、法令による問題を解決しなければならないが、行政の縦割りによって機能の複合化ができないようではいけない。行政間での連携をしていくこと。

###### ◎「高齢者にとって望まれる機能」（2060年（45年後）頃を想定）

- ・空き家を利用するなど、高齢者でも歩いて行ける距離に「集う」場を整備してはどうか。
- ・インターネットなどを活用し、在宅でも用件が済ませられるようにすると良い。
- ・多世代が多目的に利用できる複合機能を持った公共施設が望まれるのではないか。
- ・行政が全ての機能を提供するのではなく、民間が民間の得意分野における機能を提供し、多様なニーズに対応できるようにしてはどうか。
- ・様々な公共施設の機能を集約することで、公共施設の魅力と価値を高めてはどうか。
- ・国・都・市が持つ公共施設の類似機能の整理をしてはどうか。

(5) 第4回 市民会議

①テーマ

夢と希望～(仮称)小平市公共施設マネジメント基本方針の副題を考える～について

②スケジュール

14:00～14:05(5分)	開会
14:05～14:15(10分)	前回の振り返り（市民2名で5分ごと発表）
14:15～14:30(15分)	行政経営課による「量・品質・機能」のおさらい
14:30～15:55(85分)	ワークショップ
15:55～16:00(5分)	事務連絡

③前回の振り返り

前回市民会議（6月27日）に参加された市民から、会議内容を前回欠席者に情報提供するとともに、出席者にとっても前回話し合った内容を思い出してもらうことを目的に振り返りを行った。

④「量・品質・機能」のおさらい

ワークショップでの活発な意見交換と効果的な内容とするため、「量・品質・機能」について再度行政経営課から説明を行った。（資料「市民会議ニュースVOL.4」裏面参照）

⑤ワークショップ概要

- ・3グループに分かれて、これからの社会情勢の変化と「量・品質・機能」を踏まえて、未来の公共施設に対する夢と希望に関するキーワードを付箋に書き出した。なお、付箋への書き出しはひとり3つまでに限定した。
- ・付箋を模造紙に貼りながらグループ内で意見交換を行いながら、グループ内で(仮称)小平市公共施設マネジメント基本方針の副題を考え、発表した。

⑥ワークショップにて発表のあった副題と主な意見

**Aグループ「自分たちで創る 人が中心のまち小平」**

- ・市民が参加し、そして主体的に関わり、まちをデザインしていくこと。
- ・人のことをまず第一に考え、つながりを持てるような公共施設であること。
- ・健康やイノベーションの意識した公共施設の整備をすること。

**Bグループ「いつでもだれでもつどえる わくわくするランドマーク」**

- ・いつでも、だれでも利用できる公共施設が様々な交流を生み出す。
- ・公共施設は市政のバロメーターであり、まちのランドマークであるので市民がわくわくできるようなものであることが大切だ。
- ・公共施設が多機能的な居場所で、ゆったりまったりできるなど、人生の幸福につながると良い。

**Cグループ「緑ゆたかな自然のなかでみんなと一緒に考える公共施設」**

- ・緑ゆたかである小平市の良さが公共施設で感じられると良い。
- ・公共施設は市民交流の場であり、気軽に集まり、学び考えることができる場であること。
- ・市民同士がつながることでき、文化などを世代間でつないでいくことができる場であること。

### 3 資料

#### (1) ワークショップにおける意見のまとめ

#### 第1回 小平市公共施設マネジメント市民会議 意見集

※ワークショップで付箋に書かれたものを転記

Aグループ 担当:行政系施設、供給処理施設、市民文化・社会教育系施設、スポーツ・レクリエーション施設	
<b>総論</b>	
	まちづくりのビジョンはどのような？
	まちづくりからスタートすべき
	プロセスをオープンに
	やったことは成果でなく、結果が重要
	あらかじめ予算を明確にすべき
	老朽化率の定義
<b>施設の配置</b>	
	既に複合化された施設がある
	公共施設がないエリアがある
	市民が利用する施設は、地域にちらばっていない
	消防団の詰所はほぼちらばっている
	思ったより場所を知らなかった
	歩いていく施設。遠くまで歩ける 健康
	スポーツ施設はあまり老朽化していない
	老朽化80% 武道館・リサイクルセンター・中央公民館・健康福祉事務センター
	市の境目にも施設がある
	近隣市の公共施設もプロットしたほうが良い
	行政区域（町）にこだわらずに見直す
	他市との境界線のところも検討（共同利用）
<b>施設の量</b>	
	財政バランスを考えると統廃合は必要では
	統合しても利便性悪くなるのはどうか
	統合はNG
	単に再配置しただけじゃだめ 利便性UP
	市民が元気になる再配置していく
	公共施設としていっしょくたにしては考えない
<b>施設の質や機能</b>	
	学校以外の用途でも使える用途を探す
	維持にお金がかからないもの
	メンテが簡単なものにすべき
	空き家の利用していく
	ソーラーパネルつけてほしい
<b>市民参加</b>	
	鶴が島プロジェクト ワークショップ
	市長との対話
	市民と行政の間に大学を入れる
	市民との協働
	市民の意識を高める
	市民がかかわる
	市民をまきこむ
	もっと関心をもって

<b>Bグループ 担当:学校教育系施設、子育て支援施設、保健・福祉施設</b>	
<b>課題1 多目的、イノベーション、特区指定(国の予算ど)</b>	
	機能別割合の維持・更新のあり方
	施設の役割機能をどうするのか
	市のルールの変更が必要→市議会で議論してほしい
	学校は学校目的しか使えないということだが、市長がいうように新しい価値創造(イノベーション)には
	高齢化の割には福祉施設が少ない→小学校等の学校施設を利用したらどうか
	全域に適度にひろがっている。学校を多目的に有効活用
	新しい価値を生み出す方針は
	教育施設のマネジメントはどうするのか
	学校施設を高齢者対策に再利用
	学校の数が多いと思う
	ブリジストンなど大手民間と連携・寄附金
<b>課題2 老朽化</b>	
	小学校 老朽化したものを統一して、学校数を減らす?
	学校の老朽化率が高い
<b>課題3 小平市の人口増加策(小平市は東京のなかでも住環境としてはベスト)</b>	
	都心の密集地域からの移住を促進→都心の区と連携 なぜなら仕事に行っているのは都心なので
	これからの運営のしくみを
	地域コミュニティセンターと公民館の重複について
	人口増加策、環境
	小平の環境の良さを活かして生徒数を増やしたい
	子供の生徒数を多くしないと
<b>解決策 愛着、親しみ、市民が関心をもって参加</b>	
	1小から15小まで単純な名称だと思う

第2回 小平市公共施設マネジメント市民会議 意見集

※ワークショップで付箋に書かれたものを転記

<b>Aグループ</b>	
<b>量について</b>	
	公共施設の数 思っていたより多いと感じた。
	かたよった配置
	市役所のそばに施設が多い
	栄町、公共施設ないけど。
	人口密度に応じた配置ではない。人口密度高くても低くても同じ
	減らす→利便性落ちる
	(市民文化・社会教育系施設を示す) 緑色が多いように見える
	(公共施設の位置に貼られた) シールの数が多い
	一人あたり少ない→小さい施設が多い
	多いけど減らさないでほしいものもある
	地区に特化した公共施設は無い様に感じる
	地域社会のコミュニティの質と量
	社会教育施設として市民に学習の機会を提供しているのか
	交通機関に関係のない人口密度化
	余り計画性を感じない宅地化
	今までの事をリセットしていけているのか
	集約できるものは集約する
	集約化+分散化
	すでに複合化した施設がある
	近隣市の市境にも施設が結構ある
	市境：共有 子育て支援・高齢者施設
	図書館分室のこと… 図書館・学校図書館→分室の役割分散化
	空き部屋の活用
	空き家の活用
<b>品質について</b>	
	防災ヘリポート適地が少ない
	防災の視点 集まれる拠点
	小さい拠点 防災面
	(老朽化率が80%以上を示す) 赤色施設はどうするか。先に検討か
	(老朽化率が) 80%のところ いそいで考えるべき・・・
	老朽化が進んでいる施設はまだ多くない
	気軽に使える公共施設がいい
	市民の活動できる場所
	南は高齢 北は子育て
	他市から若者(若い)世代を呼べる施設配置
	次世代への地域として多種多様な機会を与えているか
	公民館と地域センターの関係
	公共施設の経営・運営を捉えなおす
	公共施設は住民の意向を適切に反映しているのか
	公立喜平保育園はなんとか残してほしい
	職員の対応改善
<b>解決策</b>	
	政策推進の組織・機関を設置し、具体的な事業、計画をする
	(行政の) たてわりの排除
	イノベーション的発想
	イノベーションを推進する

<b>Bグループ</b>	
<b>量について</b>	
	量は規模の大きさでなく自宅からの距離
	使える頻度 つまり、予約しなくても使えると良い
	公民館他施設によって他市より多い少ないがある。
	公共施設が濃厚に集中している拠点については統合化を具体化できるのではないか
	用途の違うスペースを複合化して量と質の相乗効果をねらう
	用途毎に検討する
	量の視点。地域センターが各地域（町内）毎にあり、粗密のバラツキがあるのでは。区域をもう少し大きく見たらどうか
	人口を増やす方法を両輪で考えては
	市の財政に影響する小平市の人口ほどここまで増加させることが可能か
	予算の分配は公共施設だけでなく考える
	公共施設配置のバラツキを交通アクセスの充実で補う
<b>品質について</b>	
	それぞれの地域地区で市民が公共施設の存在について、どのような恩恵を受けているか
	公共施設は、市民の幸福度にどのように貢献してきたか。（例）友だちが増えたなど
	質を具体的に書いてみる。
	用途毎に異なる
	質が悪くてもスペースがある事が大事
	質とは建物でなくてソフトでは
	質重視にすべき。量は今後、無理。
	市の予算を勘案して、量と質の充実化を考える
	各施設の使う処と使わない処を整理して運営する
	公共施設を利用する可能性（このような使い方ができます）（例）規制緩和と有料化
	質の視点。老朽化した時の補修、その前にメンテを考えた建物設計
	質の良い人口を増やす。＝市の街の魅力
	これまでの従来の発想から脱却
	民間の職員に負けない発想
	市の中にコンパクトシティを考える。作る。
<b>解決策について</b>	
	公共施設の名称の売却（広告）
	固定資産の売却、再投資
	売る
	孫正義を小平市民にする。（高額納税者）
	駅ビルの市営化。（固定収入） 駅7つ
	空き家、売る、貸す色々ある。そこを自治会、小平市、事業所で話し合うべき
	人口維持・家屋対策・子育て・他
	公共施設運営（ランニングコスト）管理運営の一元化、ボランティア化（例）併用施設
	運営会社としての小平市
	他の課題を解決できる市政を考える。（例えば）空き家を地域交流場として活用する
	数を減らすのではなく、使うスペースを減らす。夏は1F、冬は2F
	減らさないで長生きさせる方法・曜日毎使用
	減築で生き延びる
	強いリーダーシップを持ったコーディネーターが必要
	市職員のサポート、ボランティア
	市民に積極的な情報提供・参加を促し、現実・将来について自分の問題として考えてもらえるようにする
	各、自治会会長たちが未来について話し合う。
	行政の縦割りの功罪
	愛着を持たず方法。周辺に開放する。
	これから増やしたい用途とは何か。それに当てる。

職員グループ	
量について	
	国立・都立・私立もあわせたら学校がものすごく多い
	周辺も学校が多い
	近隣市の施設 充実してみえる。利用できないか。
	他市の施設の影響も大きい。
	市立以外の施設もたくさんあるのでは
	土地がたくさんあるということ
	御幸町や花小金井南町はこれから人が増えそうなのに少ない
	生産緑地周辺には公共施設ない。小川町一丁目
	人が住めない場所がある。
	工場・ゴルフ場・国の施設など意外と人が住めない広大な土地が多い。
	人口密度 ブリヂェストン、小金井カントリー等住めない所を抜く
	玉川上水、新青梅街道による市域分断
	幹線道路や玉川上水で生活圏が分断されている
	幹線道路との関係性が薄い
	駅や道路とは関係なくある。
	駅と公共施設の関係なし
	7つある駅を中心としたコンパクトシティは成立しない
品質について	
	密度が高い
	海から遠い
	補助金によりたくさん建てている
	人口増加に合わせ施設を建てた
	人口増
	サービス別に施設が建っている
	名称がついた小学校
	公共の福祉施設が少ない
	第一種低層住居専用地域が多い
	木造（2F）
	鉄筋（3F以上）
	運営コストから改修・修繕費用を除いているのは変
	老朽化率もちらばっている
	この10年ではまだまだ施設は老朽化しない
	学校・保育園が古い
	品質管理
	旧震
	新耐震
	コンクリートの中性化

第3回 小平市公共施設マネジメント市民会議 意見集

※ワークショップで付箋に書かれたものを転記

Aグループ		
2060年を見据えて「子ども・若者にとって望まれる機能」		
望まれること	(遊び)	
	遊ぶ (子ども・若者)	
	楽しく遊べる	
	運動する	
	(学び)	
	学ぶ (子ども・若者)	
	子どもが学べる場	
	楽しく勉強できる	
	多目的に学べる場	
	学校と地域がつながれる	
	小・中学生がつながれる空間	
	(集い)	
	青少年センターの運用	
	青少年センターは必要	
	児童館	
	子ども・若者だけでなく全ての年代が集う場所	
	公共施設の開放	
	(多世代交流)	
	いろんな世代と交流ができる	
	高齢者とのかかわりを持つ	
	保育園高齢者とのふれあい	
	大学生との交流	
	多世代との疑似家庭を経験できる	
	親子で居れる場所	
	集う (仲間作り)	
	地域センターと児童館の共同地での交流	
	小学生の放課後居残り場所	
	課題	
	法令	
	法令改正・作る	
	行政のタテ割り	
同一建物の中に入れる公共施設あるはず		
小・中同じ敷地、建物別		
保育園と公民館の同一地での活用		
児童館運営ノウハウを学校開放へ		
校内に地域住民のためのスペースづくり、子との交流		
同じ人が繰り返しかう場になっている (地域センター)		
近いところ部分的交流		
地域の人たちを巻き込むしくみづくり		
地域住民の寛容性の低下		
地域社会の結びつきの低下 (崩壊)		
核家族化による多世代間交流能力の低下		
保護者の過剰とも思える責任追求		

	思う存分遊べる場所がない
	遊ぶと学ぶは同じ。先輩が実演 いっしょに作る
	作ったもので遊ぶ
<b>解決策</b>	
	機能の複合化
	機能拡充（例：年齢制限の撤廃）
	行政の機能・人の連携
	子どものすそす場を各公共施設へ

<b>Bグループ</b>	
2060年を見据えて「高齢者にとって望まれる機能」	
<b>望まれること・課題</b>	
	安心感を生む
	住民ニーズに対応させる
	PCを使える高齢者が増え施設利用が変わる
	<b>(近くにあるといい)</b>
	住居の近くにあることが望ましい
	施設を利用する人は増える
	歩いていける自由に集える施設
	高齢者の自宅の近くに病院施設があれば良い
	<b>(集う・ふれあう)</b>
	集う
	足を確保すること
	歩いて行けない人が施設に行ける交通機能
	近くにレクリエーション施設必要
	幼児と高齢者のふれあい
	高齢者のさみしさを軽減させる考えを持つ（各人が）
	若い住民との課題共有
	共助としての早期発見（認知症とか）
	自治会での共助の盛り上がり
	団体（サークル）で活動できる（無料で）
	防災に強い公共施設
	アットホームである施設で立派である必要はない
	街中の空き家（空き部屋）の利用ができないか
	<b>(いきいきと健康に)</b>
	歩く
	生きがい
	健康元気
	高齢者の公共施設の利用頻度は増加する
	健康志向が増えスポーツ文化施設の需要が増える
	健康維持するための体力づくり・健康づくり
	保健福祉施設
	学習することができる施設
	行く＋自ら活動
	高齢者の数、65歳で増える。元気な人が増え健康年齢が高齢者と呼ばれる。
	<b>(多機能)</b>
	さまざまな機能をもちあわせる
	ex1 住民票など個人の行政データをうけとることができる
	ex2 図書館の返却
	集約するとしても魅力的な施設
	施設のイノベーション
	ボランティア活動できる施設

(多機能)
多目的な公共施設
食べる施設 食堂
C a f e
<b>解決策</b>
施設は固定よりも柔軟性のあること
無料であること
市民参加が出来る施設
予約を取ることなく利用できること
土日にも働く高齢者増える
みどり 畑 玉川上水
働く情報の窓口を増やす
外国人 高齢者が増える
三輪車の利用
既存の公共施設、学校の図書館利用 音楽室、料理
(分散・IT)
ネットによる公共情報サービス (在宅)
I T化、省力化、民営化
分散して小さな歩いていける施設 民営・非固定etc
(集約)
集約して魅力的な施設 (大きい) 財政圧縮
幼・保・小 一体化
たてわり行政なくすこと…
国・都・施設の共有化
(行政がやるべき部分)
市役所はあった方がいい
民間だけに頼るのはダメ
行政だからできることがあるのではないか
継続性は行政
維持・持続・未来永久 民間の不得意
民間だから安いわけではない
(行政と民間の協働・委任)
公共よりも民間の力 (金と人材) を使う
市長にもコーディネーターの力が要る!
コーディネーターが必要
行政・民間協働の管理・運営
民間との連携 行政の広域
行政と民間との連携強化 (一般市民も参加) ←法律にて強制的に実行させる
私立施設の使用 (使用協定)
(しくみの転換・考え方の転換)
前例主義にとらわれない
新しいシステム価値を生み出す
ハードではなくソフトへの価値を転換
新しい仕組み システムの構築
従来の考えではない
新しい公共

第4回 小平市公共施設マネジメント市民会議 意見集

※ワークショップで付箋に書かれたものを転記

公共施設に対する夢や希望 ～(仮称)公共施設マネジメント基本方針の副題を考えよう～	
Aグループ	
自分たちで創る、人が中心のまち小平	
	市民が自分のまちを自分でデザインしていく 市民参加・主体的
	自慢できるまち…楽しい・ワクワク感・つながり
	いつまでも住みつづけたいまち小平
	参加型まちづくり
	住民・行政・市議会との協働
	新しい公共的な空間
	公共交通の拡充
	情報手段の諸手続き
	自治会・サークル活動
	分権の時代・小平市の対応
	市民の効用を高める政策
	学校の多機能化 他施設の受け皿 集約・複合 いじめ対策など (子ども対策)
	(新規) 公園のモデルチェンジ 健康器具施設を新設 (高齢者)
	図書館の読書コーナーを広げる (高齢者)
	小平市の現状と課題を見据えて
	官から民へテニスコートの転用
	自分たちで…主体・コミュニティ・つながり
	自分で・参加
	人が中心の施設作り…人が最初、人を中心に考える、つながる
	・ロビースペース
	・サークル・コミュニティ・見守り
	・複合・ハイブリッド施設
	・受け皿
	・情報化で穴を埋める

Bグループ	
いつでもだれでも集えるわくわくするランドマーク	
	生まれて墓まですごせる園
	誰でも何時でも利用できる施設へ
	多角・多機能的な居場所づくりを目指して
	ゆったりゆったり
	安心・安全・幸福な人生
	幸せの園
	伸びるまち小平
	明るいのがいいな
	公共と民活の共生する施設づくり
	交流
	いろんなひとがつどう!!
	公共施設は市政のバロメーター
	公共施設は街のランドマーク
	規制をはずす
	多機能
	ぶち田舎 小平のいいところ!
	魅力的なまち
	公共施設が幸せをもたらすものだったのか?

Cグループ
緑ゆたかな自然のなかでみんなで一緒に考える公共施設
緑豊かな
緑がゆたか
豊かな自然のなかで
みんなで一緒に考える
みんなで考える
みんなで一緒に
つながり
楽しめる場所
気軽に集まれる場所
市民参加のキッカケ
たいら
開放感
なごむ
色々な方たちと話したり活動する
市民交流の場の提供
子どもの貧困はなくなる・ひとり親家庭同士助け合える場で二人親家庭にする（共同）
つくる
つなぐ
充実した人生
絶対変わらない スポーツ・文化
人口は減らない・税収も減らない
市民活動活性化の起爆剤
やりたいことをやる
学べる場所
人は変わる・小平市のほとんどの女性はフルタイムで働いていない・ （65歳で高齢者と決めつけるのはナンセンス）老人はいない
TOKYO KODAIRA 国際化で外国人居住者が増える



未来につなぐ公共施設のあり方を考えませんか？

## 小平市 公共施設マネジメント市民会議ニュース

VOL.1 平成27年6月3日

### 第1回 小平市公共施設マネジメント市民会議

●日時：平成27年5月23日(土曜) 午後2時～午後4時10分

●場所：中央公民館 講座室2

●概要：① 開会

② これまでの小平市の取組等説明

③ ワークショップ【テーマ：小平市の公共施設の現状】

④ 閉会



将来の社会情勢の変化などを見据え、これからの公共施設のあり方について話し合う小平市公共施設マネジメント市民会議を4回シリーズで開催しています。

第1回市民会議の内容は、公共施設マネジメントにおける「これまでの小平市の取組等」について行政経営課から説明をした後に、2グループに分かれてワークショップを行いました。

### ワークショップの概要

#### ステップ1 地図づくり

各グループで、小平市の白地図に公共施設配置場所を機能ごとに色分けしたシールを貼る。老朽化の状況に応じて色分けして、色鉛筆で施設周辺を塗る。

#### ステップ2 意見だし

グループごとに、作成した地図を見て感じたことを付箋に書き、意見を発表しながら模造紙に付箋を貼っていく。

#### ステップ3 発表

グループのメンバーから出された意見をまとめていく。最後に、グループで発表者などの役割を決めて意見を発表する。



グループワークで作成した公共施設配置図の様子



発表の様子

■主な意見

- ・公共施設は市内に適度に散らばっている印象だ。近隣他市の施設もプロットするとよいのではないか。
- ・高齢化が進んでいく割には、福祉系の施設が少ない気がする。
- ・財政バランスを考えた公共施設の統廃合が必要ではないか。
- ・学校施設は学校目的でしか使用できないということではなく、新しい価値を創造してはどうか。
- ・番号が学校の名称になっているところについて、ニックネームを付けて愛着を生み出してはどうか。
- ・学校しか建設できないような「用途地域」を見直す検討をしてはどうか。
- ・国の特区指定や民間との連携も視野に入れてはどうか。
- ・小平市は住みやすいまちだ。まちの強みを生かした人口増加策を検討してはどうか。
- ・市民との協働で公共施設マネジメントを進めていくべき。
- ・公共施設マネジメントについては、市民と市長が対話をしながら進めていくべき。



小平市公共施設マネジメント市民会議 番外編

- 日時：平成27年5月30日（土曜） 午前9時～午後0時40分
- 概要：施設見学



小平市内の4つの施設を見学しました。それぞれの施設では、施設の運営等に携わる担当職員の方に施設内を案内していただきました。



見学の様子（なかまちテラス）

【施設見学ルート】

集合 小平市役所庁舎正面玄関集合

- ① 小平第六小学校
- ② 小平元気村おがわ東
- ③ 仲町公民館・仲町図書館（なかまちテラス）
- ④ 福祉会館

解散

当日は晴天にも恵まれました。それぞれの施設の特徴などについて担当者から説明を受けるとともに、参加者から活発な意見交換などが行われました。



今後の予定

- 第2回 6月13日（土曜）福祉会館 第3集会室
- 第3回 6月27日（土曜）中央公民館 講座室2
- 第4回 7月18日（土曜）中央公民館 講座室2
- ※いずれも午後2時～午後4時



【お問合せ】

小平市 企画政策部 行政経営課  
〒187-8701 小平市小川町2-1333  
TEL 042-346-9756 FAX 042-346-9513  
メールアドレス gyoseikeiei@city.kodaira.lg.jp

未来につなぐ公共施設のあり方を考えませんか？

## 小平市 公共施設マネジメント市民会議ニュース

VOL.2 平成27年6月16日



### 第2回 小平市公共施設マネジメント市民会議

- 日時：平成27年6月13日(土曜) 午後2時～午後4時10分
- 場所：福祉会館 第3集会室
- 概要：① 開会  
② 前回会議の振り返り  
③ 「量と品質」による視点の説明  
④ ワークショップ【テーマ：公共施設における「量と品質」】  
⑤ 閉会

将来の社会情勢の変化などを見据え、これからの公共施設のあり方について話し合う小平市公共施設マネジメント市民会議を4回シリーズで開催しています。

今回の内容は、前回の会議で話し合ったことなどを参加され方にお話していただき、行政経営課から公共施設における「量と品質」の視点についての説明を行った後に、グループに分かれワークショップを行いました。また、今回は市民の方で構成されるグループに加え、職員のみで構成される「職員グループ」を編成して参加しました。

### ワークショップの概要

#### ステップ1 職員説明

ワークショップの前段として、公共施設における「量と品質」について、行政経営課からパワーポイントによる説明を行い、ワークショップをするために必要な知識や情報を提供する。



「量と品質」についての説明

#### ステップ2 意見だし

グループごとに、公共施設の配置、老朽化度、人口密度が描かれた地図を見て、「量と品質」の視点から感じたことなどを付箋に書き、意見や課題への解決策を発表しながら模造紙に付箋を貼っていく。



グループワークの様子

#### ステップ3 発表

グループのメンバーから出された意見をまとめていく。最後に、グループで発表者などの役割を決めて意見を発表する。



発表の様子

裏面につづく



【今回のポイント】公共施設における「量と品質」とは



「量」と「品質」について説明します。公共施設の「量」は延床面積で表わすことができます。小平市には市役所庁舎や学校など様々な公共施設があります。これら公共施設の延べ床面積を合計すると約31万㎡になり、東京ドーム約6.6個分の広さとなります。市民一人あたりの面積は約1.65㎡で、畳1畳分ほどの広さとなります。ある大学の研究機関の調査によると、東京都市町村における公共施設の一人あたりの延床面積は2.03㎡とあり、小平市は若干少ないということが言えますが、今後の人口減少などの社会情勢の変化を見据え、適切な「量」について考えていく必要があります。

続いて「品質」の視点ですが、公共施設はその機能やサービスを提供するために、建物を建設してから適切に維持管理をしていく必要があります。また、老朽化が進んだ建物については、建替えなどを検討する必要があります。公共施設は多くの市民が利用することから、安心・安全に建物を保つ「品質」の視点が重要となります。

■ワークショップで出た主な意見

- ・一人あたりの延床面積は多摩地域平均よりは低いが、思ったより公共施設の数が多い。
- ・近隣市との市境にも公共施設が結構ある。
- ・駅や幹線道路の位置とは関係なく、公共施設が配置されている印象だ。
- ・公共施設が集中している地域については、複合化などを検討することが可能だ。
- ・老朽化が進んでいるところは、急いで今後の対応を考えるべきだ。
- ・老朽化したときの維持管理がしやすいような建物の設計が必要だ。
- ・耐震強度やコンクリート内の鉄筋がさびているかといった管理の視点も重要だ。
- ・防災面として、公共施設を活用した小さな避難拠点が整備されると良い。
- ・複数の課題を解決できるような策を考えるべきだ。
- ・イノベーション（新しい発想）を推進することが大切だ。
- ・行政の縦割りをなくし、政策を前に進める機関を設置し、具体的に事業を推進すべきだ。
- ・それぞれの地域で、公共施設から市民がどれほど恩恵を受けているかを考えるべきだ。
- ・まちの魅力を発信し、人口を維持、もしくは増加させることも考えてはどうか。
- ・市民に積極的に情報提供を行うなど、公共施設の課題を自分の問題として考えてもらえるように働きかけることも大切だ。



今後の予定

第3回 6月27日（土曜）中央公民館 講座室2  
第4回 7月18日（土曜）中央公民館 講座室2  
※いずれも午後2時～午後4時



【お問合せ】

小平市 企画政策部 行政経営課  
〒187-8701 小平市小川町2-1333  
Tel 042-346-9756 FAX 042-346-9513  
メールアドレス gyoseikeiei@city.kodaira.lg.jp